

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)		令和4年度 第3回川西市介護保険運営協議会 生活支援体制整備部会(第14回第1層協議体兼地域ケア推進会議)	
事務局(担当課)		福祉部 介護保険課	
開催日時		令和4年11月30日(水)午後3時～午後5時	
開催場所		川西市役所2階 202会議室	
出席者	委員	吉岡 健一、細見 幸巳、田口 巳義、清水 和恵、平岡 譲 井口 尚子、鷺野 奈美子、成徳 明伸、片岡 大雅、中上 直人 坂根 健一、細海 里恵	
	事務局	福祉部 高塚副部長、田中参事 介護保険課 福丸課長、貞松担当課長、山本主査、新家主事	
傍聴の可否		可	傍聴者数 1人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第		1. 開会 2. 協議事項 (1)課題 通いの場(サロンや居場所)の課題解決 ①川西市社会福祉協議会「ほっとかへんネット」について ②課題解決に向けた協議 (2)地域課題をふまえた人材確保の取組みについて 3. その他 (1)福祉と医療の総合情報サイト<かわにしサポートナビ> について (2)次回開催について 4. 閉会	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

## 審 議 経 過

事務局	<p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第3回川西市介護保険運営協議会「生活支援体制整備部会」第14回第1層協議体兼地域ケア推進会議を開会いたします。</p> <p>私は、本日司会を務めます福祉部介護保険課課長の福丸でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>部会員の皆様方には何かとご多忙のところ、ご参集を賜り誠にありがとうございます。</p> <p>まずはじめに部会員の交代についてご報告いたします。</p> <p>この度、新たに平岡 譲委員にご就任いただいております。</p> <p>では、平岡委員から一言ごあいさつを頂戴いたします。</p>
部会員	<p>みなさん、こんにちは、</p> <p>川西市議会選出の平岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>尚、ただいまご紹介いたしました平岡委員への委嘱状につきましては、時間の都合上机上配布とさせていただきます。ご了承くださいますようお願いいたします。</p> <p>続きまして、事務局職員の異動についてご報告いたします。</p> <p>11月1日付で認知症対策アクションプラン担当参事として、田中英之が着任いたしました。</p> <p>田中より、一言ごあいさつ申し上げます。</p>
参事	<p>ただいま、ご紹介に預かりました田中英之でございます。私が担当いたします認知症対策アクションプランは、越田市長のマニフェストに認知症の早期発見から家族支援があり、認知症になっても暮らせるまちづくりをきっかけ令和6年度スタートに向けて取り組みはじめたところでございます。今後、皆様のご支援ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、ここから吉岡部会長に議事進行をお願いいたします。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
部会長	<p>本日も皆様の活発な意見交換、ご協議を、ぜひともよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、まず、委員の出席について、確認させていただきます。</p> <p>委員の出席については、委員14名の内、本日ご出席をいただいておりますのは、12名でございます。</p> <p>よって、川西市介護保険運営協議会規則第3条第4項の規定に基づき本日の部会は成立しております。</p> <p>傍聴の方は、いらっしゃいますか。</p>
事務局	<p>傍聴の方は、現在1名お越しいただいております。</p>

部会長	<p>では、議事に入ります前に、事務局から資料の確認をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、資料の確認をさせていただきます。      事前に送付させていただきましたのは、      資料「第2層圏域の地域課題に向けたアイデア記入シート」      参考資料「地域での支えあい活動における課題整理」      の計2点をお送りしております。      また机上には、      ・次第      ・委員名簿      当日配付資料として、      ・資料2「川西市社会福祉法人連絡協議会「ほっとかへんネット」について      の3点をお配りしております。皆様、資料はお揃いでしょうか。</p>
部会長	<p>それでは前回の協議を少し振り返らせていただきます。前回の協議では、生活支援体制整備事業とは何のためのどのような事業か、そして、現在の川西市の地域課題はどのようなもので、解決するために第1層協議体で取り組むべきことは何か意見を出し合いました。そして、生活支援や通いの場に対する人材不足などの地域課題を解決するためのアイデア出し、協力者探しを全市的にどのように取り組んでいくべきか、次回の課題にしたいとの協議をしました。その中で社会福祉法人の地域貢献についての意見も出ましたので、まず協議事項(1)通いの場(サロンや居場所)の課題解決の①川西市社会福祉法人連絡協議会「ほっとかへんネット」について、川西市社会福祉協議会事務局長の田口委員からご説明いただきます。</p>
部会員	<p>それでは、私の方から説明させていただきます。資料の方をご覧ください。川西市社会福祉法人連絡協議会「ほっとかへんネット」についてですが、市内にあります複数の社会福祉法人がそれぞれの特性を活かして地域福祉の課題の解決に向けて連携や交流する組織となっています。</p> <p>兵庫県内におきましては、「ほっとかへん」を合言葉に社会福祉法人連絡協議会が順次設立されている状況です。令和4年3月現在、37市区町となっております。今年度におきましても新たに2地区が立ち上げをされましたので、現在39市区町というかたちになっております。</p> <p>「ほっとかへんネットかわにし」の概要でございますが、川西市では平成30年9月12日に設立をさせていただいております。お手元の資料に加入法人一覧がございますが、高齢・障がい・児童の16法人が参加しています。役員構成は、会長1名、副会長2名、理事1名、監事1名となっております。会としては、総会が年に1回、役員会を年5回程度の開催としています。</p> <p>これまでの活動についてですが、平成30年度は、まず情報交換会を行うとともに社会福祉法人の地域における公益的な取組みについて研修会を開催しております。平成31年度には「ほっとかへんネット」の広報のため、のぼりやチラシを作成し、川西祭りに参加し啓発を行い、好評だったと聞いております。また社会福祉法人連絡協議会として先進的に地域交流活動を行っている垂水区社会福祉法人連絡協議会の方に来ていただき研修を行ったり、地域福祉課の職員を講師として研修会を行ったりしました。令和2年度については、地区福祉委員会との懇談会や地域福祉フォーラムへの参加を計画</p>

していましたが、新型コロナウイルス感染症の広がりに伴い中止となりました。

令和3年度も当初は、社協職員が各法人を訪問し、地域共生社会の実現に向けた支援体制の構築と社会福祉法人の役割について法人職員の方と協議をさせていただきたいと考えておりましたが、こちらもコロナ禍のため中止しております。そのため、昨年7月に新型コロナ感染症について学ぶため本会の産業医による研修を行いました。

また、2回目の研修としまして地域包括ケアシステム構築に向けた社会福祉法人の果たすべき役割についてというテーマで地域福祉課の職員にお話をいただきました。

今年度の取組みは共同事業として令和5年1月10日から22日に16法人によるフードドライブを実施させていただきたいと考えています。提供いただいた物品につきましては、社協を通してこども食堂等の実施事業所へ寄贈したいと思っております。詳細につきましては、介護保険課を通してまたご報告させていただきます。

広報活動としては、社協のホームページに連絡協議会の概要を載せさせていただきたいと思っております。また、災害に対する対応の研修を実施予定です。

なお手元のチラシに加入法人が地域貢献している事業名を記載しています。子ども・障がい者・高齢者への専門的な相談やよろづ相談、複合的な課題に対する総合相談、成年後見相談等も実施しております。また車いす等の物品の貸し出し、交流のためのスペースの開放、地域に職員を派遣して講習会、体験学習を行っています。その他、交流会やコンサート、地域清掃、地域巡回バスなど法人ごとに様々な活動を行っていることがわかりました。今後もフードドライブ等を起点として「ほっとかへんネットかわにし」で取組める地域活動を参加法人の皆様と考えて進めていきたいと考えております。

以上を報告とさせていただきます。

部会長

ありがとうございました。  
「ほっとかへんネットかわにし」について、ご質問等がございますでしょうか

(質問等 なし)

部会長

皆さんは、もう「ほっとかへんネットかわにし」の活動をご存じなのかもしれませんね  
ご質問などがもしおありでしたら直接お聞きいただいてもよいかと思います。

今回説明いただきましたのは、社会資源として講座や物品の貸出し、職員の派遣など行っておられる様々な活動が私たちの取組んでいる地域課題に活用できないかということと本日ご説明いただきました。

次の議題に移ります。課題解決に向け皆さんに記入いただいたアイデアシートをおひとり2分程度で発表いただけたらと思います。発表いただいた後、皆さんのアイデアと「ほっとかへんネットかわにし」の活動も踏まえ、第1層協議体で何ができるか、何をすれば良いのか、皆さんと検討したいと思っております。生活支援体制整備事業についての協議が紆余曲折しながら人材確保が課題となる具体的な活動について情報共有や情報収集をすること、通いの場や生活支援に携わる人材確保だということにまとまってきました。

次はアイデアを出し合いどのように取組んでいけるかを協議したいと思っております。  
それでは、手元のご自身の書かれた資料に基づき、お席順に発表をお願いいたします

部会員	<p>「ほっとかへんネット」の活性化と広報の充実や全市的な拠点として空き家などの有効活用、また、若い世代の方が移住して明石市のような子育て世代に住んでみたいと思ってもらえる街づくりが必要だと思います。</p> <p>通いの場でその場に行けなくてもSNSを使って参加できると思いますので、オンラインの活用を促進するためにもWiFi環境の整備の推進が必要だと思います。</p> <p>広報については、「かわナビ」をはじめ市の広報誌など広報媒体の有効活用が必要だと思います。動画などを利用して地域活動を啓発することや地域福祉フォーラムで訪問型助けあい活動や子ども食堂を先進事例として取り上げ、広報していただきたいと思います。障がい者1日サロンもWeb配信しているとお聞きしています。地域福祉フォーラムもそのような検討をしていただきたいと思います。</p> <p>ボランティア活動の活性化のためには大学やNPOと連携するにはどうすれば良いかを検討する必要があると思います。</p> <p>また、通いの場には立地条件の悪いところもあるので、移動支援は必要です。コミュニティバスや乗り合いバスの検討や活用が必要で今後考えていかなければならないと思います。ただ、どの課題も福祉の部署だけでは解決できる課題ではないので他部署と連携し、その時々議題に合わせて関係者もこの場に参加していただき、一緒に協議できればと思います。</p>
部会長	<p>ありがとうございました</p> <p>空き家の活用、WiFi環境の整備、市民フォーラムや「かわナビ」などを通じた広報活動や大学との提携、移動手段の活性化などをあげていただきました。</p> <p>次の委員をお願いします。</p>
部会員	<p>私の方から申し上げます。</p> <p>第2層協議体であがっている課題に対して、市や第1層協議体がどのように取り組んでいけるか話したいと思います。当地区はWiFi環境があるのでスマホ教室もご自身のスマホでおこなっていて、お互いに教えあう形で好評を得ています。なお、出席されているのが75歳以上の方が多いです。75歳以上の高齢者の社会参加には役立ちますが、若い世代の人材確保にはつながりません。WiFi環境を整備することで何をすれば、この課題の解決になるのか、第1層協議体で考え、市と協力して考えなければと思います。</p> <p>市全体の取り組みとして先ほどの意見と重複しますが、地域で一生懸命活動している方の活動がなかなか知れ渡らないので、市の広報誌やSNSを通して情報を発信していただきたいと思います。</p> <p>私の住んでいる北部のニュータウンでも同時期に入居しているので、同時期に高齢化となり空き家が増えました。坂道も多いため、これからはひとつの場所でのサロンなどよりも空き家マッチングを利用して様々な場所でサロンが行えるようになればと思います。</p>
部会長	<p>広報誌やSNSを利用した広報活動や情報発信、身近な空き家を利用した通いの場の活性化といったお話でした。ありがとうございました。</p>

部会員	<p>では、次の委員お願いいたします。</p> <p>はじめてのためなかなか引継ぎもできていないのですが、このシートを確認しまして、活動を担う人材が必要ということですので、地域支援事業として介護ボランティア制度の導入を検討するののひとつです。介護ボランティア制度を利用して元気な高齢者が介護予防に資する活動を行った場合ですが、そういう方々を有償ボランティアとして活動していただくのも一つではないかと思います。ボランティア活動をすることで例えばインセンティブとしてポイントを付与し、そのポイントを介護保険料に充てることができるか、ご自身が介護サービスを使うようになった時のサービス利用に換金できるなど、行政としてはなかなか人手も足りない中、難しいとは思いますが、アイデアのひとつとして検討してもよいのではないかと思います。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ボランティアポイントについては、以前も検討したこともありますので、事務局からご説明があるかと思います。ボランティアポイントを利用した検討が必要、元気な高齢者に地域活動を担ってもらうためにはどうすれば良いかの検討というお話ですね。元気な高齢者の活動が増えたと通いの場の活性化にもつながると思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>
部会員	<p>老人クラブ連合会ですが、会員の減少、会長になり手がいない、この場には、民生委員や福祉委員の方もおられますので、ぜひ参加をお願いしたいと思います。私も長年、民生委員をした後、老人クラブに参加し、1年間勉強して現在会長をしています。</p> <p>川小地区でもまだ話が詰められていませんが、勉強会を開催するとか何か動いていかないつぶれていく老人クラブもでてきています。そうすると、通いの場もなくなると思います。切羽詰まったところまできています。12月4日の老人クラブ連合会も人材確保が課題になってくると思います。この場で良い案が出てくるとよいなと思います。</p> <p>短期集中プログラムのことですが、私の地域も始まると聞いています。立地条件もフラットで良く、私どもも楽しみにしています。このプログラムは健常者も利用できますか？</p>
部会員	<p>ご質問がありましたので短期集中プログラムについてご説明させていただきます。新規申請で要支援・事業対象者に認定された方が対象です。介護認定を受けて介護サービスを利用されていなかった方も含みます。ただ、認定申請をされて非該当になった方や申請されていない元気な方は対象ではありません。</p> <p>フレイルというのは虚弱という意味なので、フレイルを改善するためのプログラムを実施するため、元気な方の予防となると川西市きんたくん健幸体操(転倒予防いきいき百歳体操編)等になってくるのかなと思います。</p>
部会員	<p>いき百は7年実施していますが、他の曜日でも開催を行なうぐらい人気があります。ただ、どうしても女性ばかりで男性は通にくいのが現状です。</p> <p>駅前のスポーツジムまでは行けなくても、近くのそういう場所を使えるようにしてもらえたら良いと思います。元気でやはり弱ってくるので料金が発生する形でよいと思うので、違う曜日に認定を受けていない方向けにそこで行ってもらうなどの検討を</p>

部会長	<p>していただきたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。老人クラブの後継者問題、フレイル予防を要支援に限らず元気な方にも何か場所の提供も含めて行えないかというご意見をいただきました。</p> <p>では次の方お願いします。</p>
部会員	<p>よろしく願いいたします。</p> <p>第2層の地域課題に照らし合わせて書かせていただいたのですが、私どものさわやか千の里の法人でも認定を受け、助けあい活動を行っています。</p> <p>また、さわやか北摂では平成28年度より居場所も含め、助け合い活動を行っています。居場所というのを今後は総合事業の基準緩和型サービス B でおこなっていきたいと考えていますので、いろんな意味での通いの場を提供できるのではないかと考えています。それに伴い基準緩和型訪問サービスも同じく「さわやか北摂」の方で福祉有償運送運転者講習と同行援護従事者養成研修を実施しておりまして、既にベースがあるので市で行われている生活支援サポーター養成研修の委託ということも考えていけるのではないかと思います。当法人は北の方にありますので、市役所には来づらいけれど私どもの場所であれば気軽に来られるという方もおられるのではと思います。改めて活動先を探さなくても、当法人ですぐ活動できるのでないかと思います。この研修には、いろんな年齢層の方が受講されると思いますので、自力で新たに探すより気軽な気持ちで活動していただけるのではないかと思います。</p> <p>高齢者の地域課題につきましては、福祉有償運送を 7 月まで取り組んでいましたが終了し、8 月から福祉タクシーと介護タクシーの両方を運営しています。福祉有償運送というのはヘルパーの資格があり、かつ福祉有償運送運転者講習修了者がなっていて、このようなノウハウを使って訪問型サービス D や規制緩和されたようなことを当法人が認可をもらって行っていくというようなこともできるのではないかと思います。</p> <p>また、空き家対策の話もでていましたが、様々なところでできれば近所の方も行きやすいとは思いますが、私どもが行うことで、送迎がないと自力では行けない方も利用できるのではないかと思います。</p> <p>私どもで基準緩和型サービスをいろいろ考えてはいるのですが、条件や基準が定められていないため、決めづらかったり行動しづらかったりするのですが、そういうところを市に早急に決めていただいたり、方向性を示していただけたらと思います。そうしていただくと、より私たちも動きやすく、スピードアップになります。総合事業を国が推し進めてから、ずいぶん経ちますがほぼ進んでいない状態らしいですし、川西市でも実施されているのがゼロということなので、ゼロが1になるような動きをしていきたいと当法人内で話し合っています。</p> <p>人材確保のところでは、ボランティアに対する意識のハードルを下げ、ボランティア体験ですとか、通いの場巡りのような地図的にこんなところで体験できますよ、きんたくん健幸体操や健幸マイレージのような気軽に参加できて、楽しいイメージをボランティアにつける必要があると思います。市の広報誌を利用してそういうことをアピールするとよいと思います。「さわやか北摂」でも通信を発行していますが、会員のみへの配布のため、幅広く市民が読まれているのは市の広報誌だと思います。誰でも目に触れるので、ハードルを下げ楽しいというのを勧奨するというのもできるのかなと思います。</p>

<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>さわやか北摂さんでできるアイデアを出していただきました。通所型サービス B であつたり訪問型サービス D、福祉有償運送のことなどのお話をいただきました。</p> <p>実施するにあたって市との円滑な協議や連携が必要というお話でした。ボランティアも敷居が高いのでもっとハードルを低く、しんどいものから楽しいものと言うお話でした。</p> <p>では次の方、お願いいたします。</p>
<p>部会員</p>	<p>提出できていませんので口頭でお話しします。</p> <p>私ども介護事業者の団体として、市内 130 事業所が加入していますのでやれることが色々あると考えています。通いの場を定期的に関きたいが場所が不足しているのであれば介護事業所の会議室を開放して利用できないかと思っております</p> <p>人材不足に関することは、介護の業界で人材をシェアしていくというのがコロナ禍の中で浸透してしまっていて、どこまで人材の供給ができるかは少しおいておいて、例えば協力いただけそうな介護事業者さんを登録してスポット的に人材を供給できる仕組みを考えると、委託にするのか方法論は考えていく必要があるかとは思っています。何らかのなり手と言っても専門的知見がないと実践に活かしていけないところもあると思っておりますので、私たち介護事業者の中で動ける人材をシェアしていけば、スピード感を持って取り組めるのではないかと思います。</p> <p>皆さんの意見にもありましたが、空き家の対策のところでも以前越田市長と意見交換をさせていただいた際に、不動産を取り扱う会社が市内にもたくさんあるが一つ一つの会社と交渉しても、埒が明かないので、例えば川西市内の不動産業の協会等とコラボして打開策を見つけていく等のアクションを起こさないと、空き家を活用していくことなどに関しては前に進んでいかなければいけないかと話されていました。</p> <p>私も空き家問題というのは全国的に起こっている問題ですので、現実には打開策が見つけないのではないかと感じています。この空き家の問題を出したのは、お金を生まない不動産を寝かしておくのではなく、安い賃料で介護に従事する方に貸してあげることで、有効活用していく考え方ができないかなと思います。このあたりが解決していくと面白いのではないかと感じております。</p> <p>あとは「かわナビ」をしっかり広報し周知していくことで利用率が上がっていくのではないかと思います。私からは以上です。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>たくさんのアイデアを短期的にできること、中長期的に取り組むこと、第 1 層でできること市と協議しないといけないこと、様々ですのでホワイトボードに書いていただきたいと思います。</p> <p>市内の事業所の会議室等の空きスペースの提供、専門職の人材派遣、川西市と市内不動産協会の連携による空き家対策でそこを活用し、通いの場に利用することで活性化できるのではないかとご意見いただきました。</p> <p>次の方お願いいたします。</p>



部会員	<p>所属団体でできるアイデアということで、介護支援専門協会で実施できる地域課題の対策への取組みは難しいと思っています。</p> <p>法人で考えると、前回、ご依頼というか社会福祉法人等で通いの場にどのぐらいの場所とか、どのぐらいのお手伝いができるのか、確認しておいていただきたいをお願いしたんですけれどもそのあたりは、どうなりましたか？調査しなくても良いと事務局が判断したということなのか、そのあたりを教えてください。</p>
事務局	<p>ご指摘いただいていた社会福祉法人のご質問があったので、本日「ほっとかへんネット」がどのような活動をされているのかをご報告いただきました。現在の活動は、コロナ禍ということもあり活動されにくかったという状況なので、これから加入団体と検討されながら動き出されるというご報告をいただきました。</p>
部会員	<p>ということは、各法人には聞かれていないということですね。</p> <p>私も法人にも質問が来たときに、「こういった形で協力できるな」といった具体案だったりとか、他の社会福祉法人にも「これぐらいなら協力できますか」と聞くと、結構いろんな意見があり「現実的に場所貸せるよね」といった話にもなっていたのに、問い合わせが来ないなと思っていましたし、ではどこにもまとめられていないんですね。</p> <p>調査してまとめておくと2層圏域の課題である活動拠点、存在を知ってもらうための拠点、通いの場の見直し、拡充などほとんどの点が解決すると思います。</p> <p>潜在的資源と地域課題をマッチングして解決がすぐできる課題は、すぐ解決していけば良いと思っています、1層協議体が協力支援として2層圏域のこの地区のこの課題は、例えば具体的に「この法人がこういうところを貸してくれるよ」と言っているから、第2層生活支援コーディネーターさん動いてくださいと、返してあげられるのではないかと思います。そこが解決した上で、解決しない課題は市への施策提言などにあげていかなければいけないのかなと考えています。</p> <p>「さわやか」さんがサービスBをあげておられますし、社会福祉法人としても場所を提供するのは問題ないですし、「いき百」に使うおもりなど簡単な機材を保管しておくこともクリアできると思います。人材に関しては、各法人ばらつきが大きく、受付機能的な部分とか機器の接続等を手伝える法人もあれば、人材のお手伝いはできないというところもある。そこは各2層圏域で、概ね場所も人材も解決できる地域と解決できていない地域に分かれると思います。</p> <p>移動手段もあがっていましたが、そこをどこまで協力できるか、協力できる内容も違ってきますし、すべて無償なのか、ある程度有償にできるのか検討しなければならないと思います。</p> <p>まず、たくさんある課題で消せるものは消せたらいいのではないかとイメージしています。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>社会福祉法人が社会貢献事業として会議室や交流スペースの貸し出しなど活用できるところや、必要な物品を一部置いていただくことも法人によっては可能ではないか、ということでした。人材に関しては、法人の現状もあると思いますのでレクリエーションならできるとか、難しいところもあります。</p>

移動手段にしても車両は貸せるが運転手は貸せないとか、すでに法人で送迎バスを運行してくださっているところもありますが、そのような活動が有償なのか無償なのかの検討も必要であるということでした。

それでは次お願いいたします。

## 部会員

通いの場にかかるアイデアシートなんですが、私ども 2 層で掲げてきた「財源」「人材」「拠点」「移動支援」ですが、通いの場の課題を突き詰めていくと、この 4 つの課題のどれにも関わってくると思っています。

委員の方々から意見があったように、高齢者には歩いて行ける拠点、居場所がないと行くことができない現状を現場でも感じます。たとえば、拠点へ行こうと思っていたが、夏の暑い時期で途中で戻ってしまった、と。やはり歩いて行ける距離に拠点があることが求められていると感じています。歩いて行ける距離に拠点を見つけるのは難しく、自治会館といっても階段があるのか、バリアフリーか、自治会員以外でも利用できるのかなどもありますので、社会福祉法人の空きスペースを活かしていく取組みや民間の事業所に貸していただくとか、地域のお寺などでもライブやフリーマーケットをされているとも聞くので、使う使わないは地域によって事情がありますが、「拠点バンク」のようなものがあれば、人はいるが場所がない場合にそのバンクで探せるような仕組みがあれば、マッチングもしやすくなると思います。

人材確保は大きな課題です。拠点があってもそこをとりまとめてくれる人材がいないと開催できないという現状が実際にあると認識しています。とても難しい課題ですが、リーダーの足りない・不在というところにもつながってきますが、自治会も含めて地域活動への参加のハードルが上がる、これは社会環境もありますが、私も現役で働く世代ですが、働きながらなかなか活動に参加できないのが現状です。働きながら参加することができるには、今の地域組織のあり方では、そこに入っていくのは難しいと思います。

私は仕事柄、地域の会合に出席しますが、土日が多くその上、こどもの習い事などがありますので月のうちで、土日で半日休める日がなかなか見つけることができません。

地域活動に参加することが、このような仕事をしていて、決して無関心ではなくても難しいです。では、何ができるのか。小学校区単位、自治会単位では広いような気がしていて、例えば、私の住んでいるすぐそばに公園があるのですが、何も遊具がなく草が茂っていてボール遊びも禁止という制約があります。例えば周辺の若い世代を集めて、自治会もしくはコミュニティから 5 万円とか 10 万円を予算として、その人達で自分達の子どもや次の世代の子どもが使える遊具を考えてくれないかと投げかける、それぐらいのことなら自分達の子どもや次の世代の子ども達のためになるのでできるかな、など自分達のためにもなり、地域のためにもなるのであれば参加してもらえるのかなと思ったりします。

地域のあり方をプロジェクト化する、この部分ならできるという人に興味のあることを長くやっていただく、任期があるとどうしても活動がぶつぎりになってしまいますので大きな仕組みの転換が必要で全市的に協議し取り組む必要があると思います。

市全体の仕組みとして社会福祉を学ぶ機会を 65 歳になられた地域活動されるのにはまだまだ若い世代に啓発していくことや、子どもに向けた福祉教育が必要です。私も子どもの頃、地域のスポーツクラブなどに参加してきました。地域で育ててもらった経

験があると大人になった時、自分も地域のためにと思えると思いますので福祉教育にしっかり力を入れていかなければならないと思います。

ボランティアポイント、スローガン等は、これまでの協議に出てきているのでこの中で何が具体的にできるのかを考えていくことが必要だと思いますし、専門職への地域資源啓発やケースワークとコミュニティワークの連携も書かせていただいています。地域資源にどうアプローチして良いのかのイメージがつかない専門職の方が相応いらっしやると感じています。例えば、デイサービスをケアマネジャーが紹介する時は、必ずケアマネジャーが間に入られますが、地域で行っている活動となると、このような活動があるみたいですよ、で終わってしまい家族が直接連絡してくださいとなります。実は、住民が行っている活動なのでその方の特性であったり、注意しないといけない点であったりを住民同士だけのやりとりになってしまうとうまく連携がとれず、注意しないといけない部分がわからず結局地域活動している住民がしんどくなってしまいう場面も散見されます。そのようなことがないよう専門職への学びの提供が必要です。これをどのように進めていくかですが、宝塚市などは地域づくりの専門職とケースワークをしている個別の専門職と地域住民と一緒に福祉の勉強会をしているとのことなので、そういうことをやっていくのもひとつかなとは思っています。

スローガンは、以前にも出た話ですが、地域の中で助けあいを行っていこうというようなスローガンを掲げることも必要です。明石市が子育ての町と印象付いたように、スローガンを掲げそれに沿った施策を行っていくことは大きな視点として必要だと思います。

部会長

社会福祉法人連絡協議会との連携であったり、拠点バンクがあればより地域の活性化につながるということや、福祉教育の重要性や若い世代を取り込んだり、子育てしやすいまちづくりをめざすことや、スローガンを掲げることなどをお話いただきました。

最後に、次の方をお願いします。

部会員

皆さんの話をお聞きして、福祉教育の話聞きながら、私も自分が生まれ育った町に何か還元することができたら、という想いがあったので、子どもへの教育というのはとても大切なことではないかと感じました。

まず、地域包括としてできることとして、フレイルの短期集中改善プログラムを立ち上げたところですので軌道に乗せて皆さんにどれぐらい役に立つ事業なのかを検証していかなければならないことと、引き続き、いきいき元気クラブ等に対する指導・教育的なところは包括の役割だと思っています。

市全体としての取組みは月並みなことしか考えられず、お恥ずかしい限りなのですが、人材と場所の確保がとても重要と思っています。人材確保には、人材活用が大切だと思っていて、大学生の地域参加等も大切です。大学の傾向としては、専門教育だけではなく、ネットワークを作るといった教育に力を入れはじめています。縦割りではなく横のつながりを大切にした教育をしている大学等も巻き込んでいくといろんな関心を持って参加してくれるのではないかと思いますし、地域にも新たな刺激が生まれるのではないかと思います。医療系の大学と全く違う学部の大学と連携し、なお且つ建築関係の大学と場づくりをしている話も聞きますので、そういうことを取り入れるのもひとつかなと思います。学生が地域に参加することで地域に帰っていきやすくなるし、

	<p>地域にマンパワーがあることを知ることで将来的に施設等に頼らず在宅で過ごすことへの方向性が見えてくる人が増えてくるのではないかと思います。あくまで長期的な視点ですが。</p> <p>あと学校の活用ですが、男性も参加しづらいですが、スポーツクラブ21等に65歳以上の方でスポーツの指導者として参加していただくとか、学校の部活動に高齢者が指導者として活動する取組みも良いと思います。昔から学校というのは地域の拠点です。そういうところの利用を考えても良いと思います。</p> <p>空き家の利用は、私が考えているのは空き店舗ですが、小さなお店が閉店したような空き店舗の活用やガソリンスタンドが閉店するところも多いので、駐車場が広く乗り合いなどで通いの場に使えると思ったりしました。</p> <p>こういった違ったアイデアをお互い聞き合うのは、今日のこの意見交換はとても重要ではないのかと自画自賛のようになりますが、感じました。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>学校の活用であったり福祉教育や大学生に対してコミュニティワークへの参加啓発、空き店舗、シャッター商店街の活用などのお話をいただきました。</p>
部会員	<p>家にシートを忘れてきましたが、今週の月曜日に地区のふれあい広場に出ていたのですが、所属団体でできるアイデアですと、特に問題なのは拠点です。</p> <p>私どもの地区ではコミュニティ会館を利用しているために、自由に使えないのが現状です。地域の方が自由にに入れる拠点が必要です。利用しやすい会場の設営が必要で例えばイベント的に介護保険の勉強会をしようとか、何か物作りをしようかなどの参加したくなるプログラムがあれば良いのではないかとの話も役員でしています。</p> <p>人材発掘なんですけど、結構、地域に関心を持っておられる方はおられます。ただ、今の団体に入りづらい。以前に市の方でアドバイザー的な人を地域に入れるのはどうか等の話もありました。うちの地区のコミュニティでは、ボランティアを募集して、現在、大学生3人が活動してくれています。その方達にふれあい広場にも参加してもらえないかとコミュニティにお願いしています。先ほども出ていますように大学生のような若い人の話を聞くのは、新しいアイデアがでて良いと思います。地域ではコロナ禍で引きこもっている方が多いので、通いの場を1カ所ではなくもっといろんなところでやった方が良いですが、お手伝いしてくれる方がいない、行きやすい場所があっても人がいない、そういうところが問題だと思います。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>拠点を作れば作るほど人材が足りない、そのためには多少、財源も必要になってくると思います。それでは最後お願いします。</p>
部会員	<p>私は、地域活動を広報するのに地域活動が楽しいということがひとつ、その他に認知症を発症する確率が毎日人と交流している方を1とした場合、月1回や週1回の方は、その確率が1.4倍になるというデータ等を掲載することで、地域に参加することは、自分のためにもなるのだということをアピールできればと思っています。</p> <p>「かわナビ」には、お知らせ欄があるのですが、そこでサロンを特集し、クリックするこ</p>

	<p>とで市内のサロンが出てくるようなことにも「かわナビ」を利用していきたいと思っています。</p> <p>第1層コーディネーターとしてできることとして、通いの場に使える空きスペース等の集約や事業所等にご協力いただく中などで、お手伝いしていただける方、お手伝いいただける範囲の集約等ができればと思います。また全市的な通いの場などのネットワークを立ち上げることができれば、第1層で取り組むべきこと、第2層圏域で取り組めることの共有や連携ができると思いました。</p> <p>ポイント制度のことですが、マイナンバーカードを使ったポイント制度など今までの部会で協議し、今後の検討課題としてきましたが、なかなか利便性のあるものがありません。今後、地域の方が望んでいて利便性のあるものがあれば、検討していく必要があると思っています。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それぞれの所属団体からアイデアを出していただきました。皆さんの意見の中でより深めていく必要のあるものはどれかご意見をいただけますでしょうか。</p> <p>次回に向けて事務局と私の方で、短期的、中期的、長期的に課題を整理し、大学生の参加や、不動産協会との空き家対策についてなど、すぐにできないこともあるかと思っています。その前にこれに取り組めばどうかなどご意見ありましたらお聞かせください。</p>
<p>部会員</p>	<p>どれも取り組まないといけないなどはと思いますが、大学生を活用というか、参加していただいてボランティア精神を養っていただきたいと思っています。やはりそれは、市で勧めていただきたいと思っています。私どもが突然大学に行って参加してくださいとは言えませんので。せっかくこのようなアイデアが出たのでぜひ、市で取り組んでいただきたいと思っています。</p> <p>先ほどの社会福祉法人でもお手伝いできる場所や人がいますよ、というお話もとてもありがたいですし、地域で使える空き家なども利用できるのであれば、そのようなことも私どもではできないので、是非取り組んでいただけると嬉しいです。</p> <p>広報のことは、楽しいことも合わせてそのように広報していただきたいと思っています。</p> <p>ボランティアは、楽しんでいただけるようなボランティアというのは難しいです。その中のリーダーによって楽しかったり、そうではない場合も経験しているので知っています。ボランティアなのだから本当は楽しいはずですから、そういうボランティア教育も必要だと思っています。</p> <p>ちょっとだけのボランティアをする方はたくさんいますが、多く関わってくれるボランティアはなかなかいません。私は経験上そう思っております。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にございますか</p>
<p>部会員</p>	<p>結局大きなくくりでいくと、人材のところになってくると思いますので、まず、長期と短期とか期間的に整理していったり、これは2層圏域でできるのかなとか整理する方が良いかと思います。意見を出したところですし、すぐ実行できる形にはなっていないので今後も意見を出し合う形にしていくのかなと思います。</p>

部会長

私はよくわかっていないのですが、空きスペース等を調べることは可能でしょうか。

部会員

サービス協会の会議に介護保険課も社協も入っています。お願いベースにはなるかと思いますが、まず役員会で事業者の方に趣旨をご説明いただいて、社会資源というか、場所の提供ができるのかどうかを投げかけないと、私の一存ではなんともいえないところだと思います。それぞれの事業所さんの諸事情がありますので、賛同いただけるのかどうかという雰囲気を感じ取っていただいた上で進めるべきか、諦めた方が良いのかになるかと思います。ただ皆さん、協力してくれるのではないかと思います。居場所づくりということは関わっている専門職や介護職員が仕事の中で苦勞している部分ですので、それが改善に向かっていくお手伝いができるひとつのきっかけになると思います。私の感覚ですが、場所は提供してくれると思います。ただ、駐車場や別の問題などあるかもしれませんが、ほぼ介護事業者さんの賛同は得られるのではないかと思います。客観的に見てそう思います。

人材は意見が分かれると思います。人手がかつかつというところももちろんありますし、結構、季節柄もありまして、夏場や冬場は入院により利用者が減ったりする、そのタイミングなら手伝いできるとか、学生のアルバイトさんや留学生の方とかなら割と夏休み等に手伝えたりします。議論するといろんな意見に分かれると思います。事業者からしたら当然赤字を出してまでは手伝えないので、採算ベースに乗った上で、どれぐらいまでなら協力できるのか、全くの無償ではないようにできるのか等ひとつひとつ精査していかなければならないと思います。それがないと、実現できるのか、できないのかのジャッジもできないと思います。

部会員

場所に関しては、社会福祉法人はもちろんですし、サービス事業所例えばデイサービス等は、ほとんど日曜日に関しては空いています。ウィークデイでなければ場所の協力はできると思います。

ただ、やはり人材に関しては、かなり意見が割れると思います。「ほっとかへんネット」にお聞きするのも良いですが、社会福祉法人やサービス事業所であったりも事業所協会さんを通してお願いした方が良いのではないかと思います。ほとんどの社会福祉法人やサービス事業所は無理な部分は無理だけど、できる部分は手伝おうかという方向には向いておられると思います。行政機関から協力を要請した方が協力は得やすいし、場所も高確率で確保できると思います。

今回は、形にならない協議が続くとみんな疲弊してしまうので、できることを検討してまず場所を提供できる、次は人材への取組み、例えばポイント制度やボランティア体験といったところに取り組む。やる場所が見つかって、やれることが決まって、じゃ、次のステップとして運営のボランティア体験をしてもらうという流れにすれば良いと思います。例えば、「いき百」や通いの場の設営のお手伝いとかをとっかかりとしては決して難しいボランティアをお願いするのではないので、参加しやすいのではないかなと思います。

現在ある資源の中で解決していく必要があると思います。事業所等の把握、そこから次に進めていくのが良いと思います。

部会長 部会員	<p>ありがとうございました。</p> <p>すみません、先ほど話させていただいた中で拠点があったとして、人がいたとして、次の問題が残ると思います。徒歩圏内といっても徒歩 10 分でも高齢者にとっては大変ですが、例えば徒歩 20 分のところの方でも来てもらえるエリアを広げるという意味のところも、スタートとするのがまた遅くなってしまおうと思います。この課題を後回しにせず同時に考えないと先延ばしになってしまうと思います。総合事業の基準緩和型サービスの条件を早期に決めることがさらに解決につながると思います。全国的に遅れているところですが、川西市もゼロなので他の市町を参考にして早くここに「1」という数字を立てたいなと思います。</p> <p>現在、総合事業での通所型サービスについてはどういう感じで進めているのか、聞かせていただきたいと思います。</p>
部会長	<p>では事務局の方からお願いします。</p>
事務局	<p>基準緩和型サービスについてのご質問でございます。先ほど基準がネックではないんじゃないかというようなことを指摘いただいたかと思いますが、市としては基準緩和型サービスの指定基準を定めております。</p> <p>総合事業が始まりましたときに、事業所の皆さまに説明会を開催したのですが、それ以降は、十分な周知ができていないと思いますので、そのあたりも含めて総合事業の利用が進んでいないのは本当にご指摘の通りですので、今後どのように移行していいのか、方向性を今すぐ出すことはできませんが、第 9 期介護保険事業計画向けて具体化していかなければならない課題だと思っておりますので、第 9 期介護保険事業計画の策定の中でお示していかなければならないと思っております。</p>
部会員	<p>ボランティアへの参加は、大学生の就職活動にプラスになることなので、そういうアピールの方法もあると思います。</p> <p>ホームページなどでのアピールですが、フレイルという言葉もピンとこないです。私でさえこの仕事をしていますが、ピンとこないです。もっとわかりやすい言葉を使って示すべきだと思います。スローガンも一般的にわかりやすい言葉にする方が良いと思います。健幸マイレージはとてもアピールもうまくいって多くの方が使っておられます。ただ、歩きましょう、ではなかなか歩かないけれど言葉も PR もとても良いのであのような感じでできれば良いと思います。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ドラッグストアでも歩くとポイントがたまるようなことをされていますし、そのようなアピールを川西市も行えば良いのではないかとご意見をいただきました。</p> <p>今回は、事業所の場所の提供やどこまで協力していただけるのかの実態把握というようなところを第 1 層生活支援コーディネーターや事務局で行って報告し、皆さんと協議させていただく形になると思います。人材については、広報やポイント制度、ボランティア体験などを考えていくことなどを次回させていただくということです。</p> <p>事務局何か補足はございますか。</p>

事務局	<p>たくさんのご意見をありがとうございました。多分、高齢者のどなたも介護予防がしたいとか、社会参加すること、生きがいを持つこと、快適に暮らしていきたいと思います。</p> <p>近くに通いの場があるといい、おしゃべりする場があったらいいけれども、でもそこを運営する人がいない、運営するには障壁ややりづらさがある。人材確保の必要な場面として、この課題を出していただいたのが前々回からですので、今運営している人がやりやすかったり、参加しやすかったりするには何ができるのか。アイデアを今回たくさん出していただきました。部会長が仰ったように場所の確保を少しでもハードルを下げていけるような取組みとしてお調べしていき、長・中・短期間に整理していく、課題解決が進んだ感があるように短期的なことに取り組みつつ、長期的に大きな視野を持ってこういう社会を目指したい等を今回の意見を事務局で整理させていただき協議しやすくなるようにご提案していきたいと思います。</p>
部会長	<p><b>3. その他</b></p> <p>次に次第の「その他」です。 「かわナビ」について、ご報告お願いいたします。</p>
部会員	<p>ご報告させていただきます。</p> <p>現在 1554 件登録されており、市民向けに公開しております。月間平均8400の閲覧がありまして、最近では、「かわナビ」を見て公民館の登録グループに参加しましたという嬉しいお話も聞いております。</p> <p>今後は、地域のことを把握していただいている第 2 層生活支援コーディネーターのみなさんがコミュニティや自治会活動について情報掲載いただけるよう資源の把握に努めていただいております。高齢者の皆様やそのご家族に役立つ情報をさらに掲載できるよう第 1 層、第 2 層の生活支援コーディネーターが連携し、運営していきますので今後もご協力をよろしくお願いいたします。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。 皆さん、今後かわナビの啓発にご協力いただければと思います。 それでは最後に事務局よりご連絡がございます</p>
事務局	<p>次回の詳細につきましては、部会長と協議の上、改めてお知らせいたします。</p>
部会長	<p><b>4. 閉会</b></p> <p>それでは、以上をもちまして、令和4年度第3回川西市介護保険運営協議会「生活支援体制整備部会」を閉会いたします。 皆さま、どうも、お疲れ様でした。 本日は、長時間にわたりありがとうございました。</p>